

懐かしの Photograph

盛岡写真今昔物語

普段見慣れた街の姿も、時の流れの中で少しずつ、時には大きく変化してきました。心の奥に残っている、昔の街の姿を懐かしみながら、変化し続ける盛岡の街をご覧ください。



昭和58年の着町（生姜町）

かつて八幡町と肴町のあたりには煙草職人がいたため「煙草町」と呼ばれましたが、神明社が建ち、門前町で生姜が売られるようになり生姜町と改められました。今でも生姜町の呼び名は健在です。

(写真提供：藤村政道氏)



現在の着町

右奥に見える「茶廊 車門」。古い蔵を利用した喫茶店は今も変わらずレトロな雰囲気を漂わせています。中央の飲食店、お店は変わっても同じ建物ということがわかります。